

がん患者に対するアピアランスケアの均てん化と指導者教育プログラムの 構築に向けた研究

研究代表者 野澤 桂子 国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター センター長

研究要旨

全がんの5年生存率が上昇し、仕事を持ちながら通院する患者も32.5万人存在する時代となった。そして、社会活動の増加は、患者に治療に伴う外見の変化を意識させる契機となり、医療の場においても、外見の変化に対する患者支援が強く求められている。にもかかわらず、医療者には、アピアランスケアについての正しい知識や公平な情報がなく、また、個々の患者支援のために必要な支援のあり方を学ぶ場もないため、患者指導に困難を感じている状況も明らかになっている。

第3期「がん対策推進基本計画」(2017年10月)では、「尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」を目指すための個別課題として、「がん患者等の就労を含めた社会的な問題(サバイバーシップ支援)」が掲げられている。そして、そのための具体的な課題の1つに、がん治療に対する外見(アピアランス)の変化(爪、皮膚障害、脱毛等)が提示され、今後「国は、がん患者の更なるQOLの向上を目指し、医療従事者を対象としたアピアランス支援研修等の開催」等を推進してゆくという方向性が示された。

本研究は、基礎的な情報や支援方法をeラーニング化して、希望する医療者が学べるようにすること(研究：アピアランスケアに関するeラーニング用基礎教育資料の開発を目指した研究)で、アピアランスケアの標準化及び均てん化を図るとともに、より高度な対応を求められるケースに対処でき、他の医療者の教育もできる指導者の養成(研究：アピアランスケアを行う指導者教育プログラムの構築に向けた研究)を目指すものである。研究班は、2017年度に医療者教育プログラムに必要な基礎データを得るための各種実態調査(基礎調査研究A・B・C)を行い、2018年度には試案を作成した。2019年度は、試案の評価研究を行い、初の医療者向けアピアランスケア研修プログラム「eラーニング用基礎教育プログラムVer.1.0」及び「アピアランスケアを行う指導者教育プログラムVer.1.0」を完成させた。

研究分担者

飯野 京子	国立看護大学校 看護学部 教授
藤間 勝子	国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター臨床心理士
清水 千佳子	国立国際医療研究センター病院 乳腺腫瘍内科 診療科長
森 文子	国立がん研究センター中央病院 看護部 副看護部長
八巻 知香子	国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部 室長
菊地 克子	仙台たいはく皮膚科クリニック院長(東北大学病院皮膚科2019年6月末迄)
全田 貞幹	国立がん研究センター東病院 放射線治療科 医長
有川 真生	国立がん研究センター中央病院 形成外科 医員

A. 研究目的

1. 背景

がんの治療法や有害事象緩和技術の進歩，入院期間の短縮化，外来治療環境の整備などにより，社会と接点をもちながら治療を行う患者が増加し，現在，就労を継続しているがん患者は32.5万人と報告されている（厚生労働省,2013）。しかし，手術療法，放射線療法，薬物療法などの治療に伴う外見の変化は患者に大きな苦痛をもたらす，患者の97%が「病院で外見に関する情報を提供して欲しい」と望んでいた（Nozawa et al,2013）。このように，外見の変化に対する患者の苦痛が高く，支援が強く求められている時代において，外見のケア（アピアランスケア）は，医療者が備えておくべき支持療法の一つであるといえよう。

にもかかわらず，長い間，外見の変化は致命的なものではないために軽視され，医療者は，乏しい科学的根拠や情報，個人的な経験に基づく処置や指導を行ってきたに過ぎない。実際，本研究者がすでに実施した7つの研究からは，抗癌剤添付文書の副作用に関する記載さえも系統立っておらず，インターネット上には医学的根拠のない，または有害なケア情報が40%も氾濫し，医療者が患者指導に困難を感じている状況が明らかになった。そこで，本研究者は，初めて多分野の研究者と協働して，ガイドライン作成手続きに則り，「がん患者に対するアピアランスケアの手引き 2016 年度版」を上梓した。この手引きによれば，「推奨度 B：科学的根拠があり勧められる」は5肢（50CQ）しかなく，多くの医療者が患者に提供している企業経由の情報には根拠がなかった。医療者は，患者指導に際して，このような状況を踏まえないといけない。

また，本研究者は，2012 年度より，がん診療連携拠点病院397 施設の医療者向けにアピアランスケア研修会を行い，延べ1114 名に対する教育を行ってきた。しかし，2017 年度の研修会は，参加者の募集開始から30 分で満席となり，患者の支援ニーズを実感している現場医療者の希望に，全く対応できていない状況にある。

平成29年10月に設定された第3期「がん対策推進基本計画」（厚生労働省,2017）では，「尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」を目指すための個別課題として，「がん患者等の就労を含めた社会的な問題（サバイバーシップ支援）」が示されている。そして，そのための具体的な課題の1つに，がん治療に対する外見（アピアランス）の変化（爪，皮膚障害，脱毛等）が提示され，今後「国は，がん患者の更なるQOLの向上を目指し，医療従事者を対象としたアピアランス支援研修等の開催」等を推進してゆくという方向性が示された。この計画では，「がん対策」に初めて「アピアランス」という用語が明記され，今後は，医療者が行うアピアランスケアの標準化及び均てん化を図ることが求められている。

上記のような状況をふまえると，アピアランスケアについては，基礎的な情報や支援方法をeラーニング化して，希望する医療者が学べるようにすることにより，その標準化及び均てん化を図るとともに，より高度な対応を求められるケースに対処できる指導者の養成が急務である。

2. 目的

本研究の目的は，がん患者のサバイバーシップを支援するため，アピアランスケアの質を担保して基礎教育の均てん化を図り（研究 ），その指導者となる医療者教育プログラムを構築する（研究 ）ことにある。そして，これらの研究により，がん患者のアピアランスケアの提供体制モデルを作成する。

全体スケジュールは，研究 共通して，2017 年度：教育内容に必要な情報を収集するための各種基礎調査研究（A・B・C），2018 年度：試案作成，2019 年度：試案実施と評価によるコンテンツの完成である。

B. 研究方法

【基礎調査研究 A・B・C】

教育資材は，アピアランスケアの手引きの開発をはじめとする，本研究グループが中心となって実施してきた先

行研究の結果に、新たに患者及び医療者、一般人を対象としたニーズ調査の結果を加味して内容を構成する。そのため、以下の A・B・C 研究を行い、教育内容を検証するための基礎データを得る。

基礎調査研究A（医療者対象）：がん治療を受ける患者に対する看護師のアピランス支援の実態と課題および研修への要望

（詳細は資料 参照）

対象者は、アピランス支援に専門的に関わっていると考えられる者として、全国がん診療連携拠点病院における看護師 400 施設（各 5 名依頼）と、アピランスケアに興味のある者のグループで開設している「アピランスケア研究ネットワーク」HP に任意にアクセスし、期間中に申し込んだ看護師、社会福祉士、心理士等の医療従事者である。

対象者が実施しているアピランス支援の内容、医療従事者がアピランスケアを実施する必要性や自信、研修プログラムの提供方法などについて、郵送法による自記式質問紙調査を行った。

基礎調査研究 B（患者対象）：がん治療に伴う外見の変化とその対処に関する実態調査

（詳細は資料 参照）

本調査に先立ち選定したインターネット調査会社に調査協力登録を行っているモニター（20-74 歳）を対象に、がん患者の抽出を目的としたスクリーニング調査を実施し、適格基準に該当するがん患者を抽出して、有効回答が 1000 名に達するまで Web 調査を行った。スクリーニングに際しては、可能な限りがん患者の男女別部位別罹患率（最新がん統計 2017）に比例するよう、本調査対象候補者を無作為抽出した。

質問項目は、外見変化によって直面する社会的困難の実態（種々の外見変化の有無、社会活動への影響、実際に行った対処方法）と情報・支援ニーズ（必要とした情報、医療者に期待する内容、適切な情報提供方法等）などである。

基礎調査研究 C（一般人対象）：一般人を対象としたがん治療に伴う外見の変化とその対処に関する意識調査

（詳細は資料 参照）

がんに罹患したことのない一般人を対象に、がんによる外見変化についてどのような知識やイメージを持っているのかを調査した。がんに罹患以前の外見変化についての知識・イメージを明らかにすることで、実際にがんに伴う外見変化への対処が必要となった時の行動や必要な支援方法を予測することが可能になり、罹患初期の適切な情報提供に活かすことができるからである。

Web 調査会社登録の日本国内に居住する 20～74 歳のがん患者 1000 名を対象に、Web 上での無記名自記式アンケート調査を実施した。

【研究 -A：アピランスケアに関する e ラーニング用基礎教育資料の開発研究】

（詳細は資料 参照）

2018 年度は、2017 年度に実施した 3 研究（ABC）のデータの解析を行い、研究者および研究協力者（患者代表）で調査結果を共有するとともに、e ラーニングの方向性を確認した。そのうえで、作成された全体構成案に基づき、分担研究者が各担当項目について、隔月ペースでグループ会議を開催しながら、389 枚のスライドを作成した（e ラーニング用基礎教育プログラム Ver.0）。

2019 年度は、まず、4 名の研究者が、項目に過不足ないか、学ぶ順序は理解を促進するのに適切かなどをチェックした後、班会議を開催して、意見交換と修正依頼を行った。各分担研究者が、修正の上、スライドの録音を実施した（e ラーニング用基礎教育プログラム Ver.0.5）。その後、日本化粧品学会評議委員菅沼薫先生より、日常整容品に関する記述内容のチェックを受けた。最終的に、内容の妥当性や実行可能性を評価した研究 -B の結果を反映し不適切な点は改良して、「e ラーニング用基礎教育プログラム Ver. 1.0」が完成した。

【研究 -B : e ラーニング研修プログラムの実行可能性の検討研究】

(詳細は資料 参照)

研究班が開発した e ラーニングプログラムの有用性及び今後のプログラム改善への示唆を得るため、アピアランス支援に関わったことのある医療者に e ラーニング研修に参加してもらい、その前後でアンケート調査を実施した。

主な評価項目は、プログラムの内容の評価 (Kirkpatrick の「研修の 4 段階評価法」を参考に作成)、e ラーニングの使いやすさに関する評価、総合的な感想 (態度や学習意欲の変化など) である。

【研究 : アピアランスケアを行う指導者教育プログラムの構築に向けた研究】

(詳細は資料 参照)

2017 年度に実施した 3 研究 (ABC) の解析結果に加え、国立がん研究センターアピアランスケア研修会基礎編・応用編 (2018 年 11・12 月開催) の参加 (139 名・79 名) 者に対して行った、無記名自記式インターネット調査の結果を加味して、3 日間のアピアランスケア指導者教育プログラム (Ver.0) を策定した。

当該プログラムの実行可能性や有用性を検証するために、研修プログラムを試行し、参加者を対象に、研修参加による認識や理解度等の変化を受講前後での比較を行った。指導者研修としての内容の適切性や指導者として必要な知識・技能が取得できたか、自信、コミットメントなどの評価も、Kirkpatrick の研修の 4 段階評価法を参考にを行った。参加者は、以前に国立がん研究センターのアピアランスケア研修を修了し、医療機関内で患者向けの実践を行っている全国がん診療連携拠点病院の看護師から公募し、適格基準・優先基準に基づき選出された 30 名である。

C. 結果及び考察

【基礎調査研究 A・B・C】

(1) 研究 A : 医療者対象調査

がん診療連携拠点病院の看護師を中心とした医療者 736 名 (回収率 36.3%) から回答を得た。その結果、24.0% がすでに院内にアピアランス支援の部門やケアチームがあると答え、専属チームが無い医療者でも多くの支援情報を患者に提供していた。しかし、ケアの標準化がされておらず医療者により認識が異なることや、医療者による支援の必要性を認識しているものの自信がない重要な支援事項なども示され、アピアランスケアの研修及び e ラーニング開発で特に強化すべき点が明らかになった。アピアランス支援の 35 項目に関しては、医療者として支援を行う必要性を強く実感していた。その反面、支援に「自信がある」と 50% 以上の対象者が答えたのは 12 項目にすぎなかった。支援の必要性を強く感じながらも、支援の自信が低かったのは、「外見変化を有する子どもの親への対応 (脱毛・四肢切断など)」、「患者と社会をつなぐことを意識した支援の提供」、「外見変化のために治療を拒否する患者・家族への対応」などであった。

また、e ラーニングによる基礎学習の希望 (92.4%) が顕著に高かった。

研究結果は、国際学会 (5th CKJ Nursing Conference) において 4 演題、国内学会 (第 33 回日本がん看護学会) において 2 演題を発表した。その後、Palliative Care Research (日本緩和医療学会誌) 2018 及び国立病院看護研究学会誌 2018 に 2 論文が掲載された。

(2) 研究 B : 患者対象調査

がん患者 1034 名 (男性 518, 女性 516)、平均年齢 58.7 才 (26-74 才) から回答を得た。外見変化を 58.1% が体験し、体験頻度・苦痛度ともに高い症状 (乳房切除・頭髪脱毛・太る・浮腫・爪剥離など)、頻度は低い苦痛度が高い症状 (ストーマ・爪膿瘍・身体一部切除など)、外見問題の対処に必要なだったが十分得られなかった情報 (復職や復学時の対処方法、スキンケア、外見変化の周囲への説明方法、脱毛前のケアや準備、爪障害予防法、再発毛の知識、爪障害対処法など) が明らかになった。これらのケアについては、意識的に e ラーニングに組み込む必要がある。

また、外見への変化の懸念が日常生活に与える影響を共分散構造分析により検討した結果、「かわいそうだと思うたくない」「外見の変化からがんとばれた」という意識が強いと、外出や対人交流、仕事や学業を減少させ、人間関係の不和を高めることもわかった。がん患者の外見変化の懸念は対処行動と日常生活への影響を与えるため、対処技術の教育だけでなく、がんと外見に対する意識変容のための教育も必要である。

医療者が外見の対処方法を説明することには、92.6%が肯定した。実際に、外見が変化した患者が利用した最大の情報源は医療者であり、情報の信頼度も最も高かった。医療者に次いで、同病の友人知人・病院配布冊子・病院 HP・患者会の人・家族・患者会 HP・同病患者のネット情報の順に高かったが、販売会社や販売員の情報、ネットのまとめサイト記事等も50%以上が信頼していた。

医療者の提供する情報の影響は顕著に大きく、適切な情報提供が求められるだけでなく、患者が正しい情報を選択できるよう、情報リテラシー教育なども必要である。

研究結果は、日本緩和医療学会第1回関東甲信越学術大会及び第33回日本がん看護学会において発表したほか、共同通信によって配信され山口新聞 2018/11/14 ほか多数の新聞で紹介された。現在、2本の論文を投稿中である。

(3) 研究 C：一般人対象調査

がん罹患したことのない一般人を対象に、がんによる外見変化についてどのような知識やイメージを持っているのかを調査した。一般人 1030 名（男性 515 名・女性 515 名）から回答を得た。一般人の意識の理解は、突然がん告知を受けた患者の思考や行動予測に役立つ。55.9%は外見が変化した患者を実際に見たことがないにも関わらず、がん患者の外見と生活に関するネガティブなイメージを有していた。また、仕事や学校生活が阻害されると考える人も多く、罹患早期の適切な介入により、社会参加への不安を軽減させる必要が示唆された。若年女性と高齢男性の約 3 割が、外見が変わるならば抗がん剤をしたくないと答えており、外見変化は治療選択にも影響する可能性も示された。また、医療者を情報源として

利用する希望が多い一方で、ネット情報にも信頼度が高く、患者に対する情報リテラシー教育をコンテンツに含む必要がある。研究結果は、第56回日本癌治療学会で発表した。

【研究 B：アピアランスケアに関する eラーニング用基礎教育資料の開発】

1. eラーニング用基礎教育プログラム Ver.1.0 の完成

2018 年度に作成された eラーニング用基礎教育プログラム Ver.0 (389 枚) は、研究者の相互検証、日本化粧品学会評議委員によるチェック及び研究 B：eラーニング研修プログラムの実行可能性の検討を経て、eラーニング用基礎教育プログラム Ver.1.0 として完成した。6 時間、ナレーション付スライド 410 枚の教育資料である。

eラーニングの構成は、最初にアピアランスケアの理念や考え方（概念）を徹底的に理解させた後、患者対応を想定した実践モデル形式でケア（ ）を学習し、最後に学術的な知識（ ）を得て確認するようになっている。

一般の eラーニング学習者が陥りがちな、知識のみを得ても実践でどのように行動を起こしてよいかわからない、という状況を回避するため、対応時期を明確にするとともに、総論知識（ ）と実践技術（ ）を逆にするなど、様々な工夫を凝らした構成とした（図 1）。

その結果、研究 B の実行可能性研究では、受講前後で、有意な知識や意欲の向上が認められ、eラーニングの使いやすさも高い評価を得た。今後は、さらに確認テストの検討など、実際の運用に向けて具体化する必要がある。

*以下の項目を基本に構成された。

プログラムの構造は、概念ユニット及びがん治療別支援方法（薬物療法・放射線療法・手術療法）からなり、それぞれ汎用性のある Step ，専門性の高い Step ，医学知識等の Step に分けられている。

* () は該当項目のとりまとめ責任者
2019 年度修正も担当。

(1) アピランスケアの概念 UNIT (野澤・藤間)

背景 基本概念 アセスメント
コミュニケーション 院内における展開方法
多職種連携の注意点

(2) Step : 情報提供を中心とした、口頭で行う
アピランスケアに必要な知識 (飯野・森)

薬物療法 : 脱毛 皮膚障害 爪障害
放射線療法 : 脱毛 皮膚炎
手術療法 : 頭頸部 乳房 ストーマ

(3) Step : 個別相談を中心とした、手技を用いるア
ピランスケアに必要な知識・技術(全田・飯野・森・野澤・
藤間)

脱毛対処 皮膚障害対処 爪障害対処
放射線皮膚炎対処(脱毛込み)
手術変形・痕対処

(4) Step : ケア提供の前提となるアピランス
ケアに関する基礎知識

化学療法に関わる外見変化(ホルモン治療含む:清水)

症状 原因薬物・変化のプロセス(時期)
発生メカニズム 副作用症状への治療法

分子標的治療薬(菊地)

症状 原因薬物・変化のプロセス(時期)
発生メカニズム 副作用症状への治療法

放射線皮膚炎(全田)

症状 原因薬物・変化のプロセス(時期)
発生メカニズム 副作用症状への治療法

手術変形・痕(頭頸部切除&再建・乳房切除&再建:有川)

症状・変化のプロセス(時期)
副作用症状への治療法 対処方法

ウィッグ・化粧品に関する基礎知識(野澤・藤間)

40.5(16.7)歳であった。アピランス支援の概論、脱毛、
皮膚・爪障害、放射線、手術療法に関する研修プログ
ラムは、視聴後の理解度の平均点は視聴前よりも有意
に高かった。また、e ラーニングの使いやすさの評価も高く、
本プログラムの実行可能性の高さが示された。

【研究 : アピランスケアを行う指導者教育プログラ
ムの構築に向けた研究】

研修参加者は全員女性であり、平均年齢 46.1 歳
(SD±6.92 歳)であった。患者に対するアピランスケ
アの指導年数は平均 6.37 年(SD±3.86 年)であり、
週 1 回以上患者にアピランスケアを提供している人が
26 人(86.6%)であった。

結果として、研修参加後の知識・技術の筆記テスト及
び自記式の理解・自信についての評価の数値は、全て
有意に上昇した。また、その内容については、参加者全
員より、「今まで e ラーニング等で学んだ知識・技能を補う
内容であった」「医療機関内でアピランスケアを展開する
上で必要な内容であった」との評価を得た。さらに、参加
者の知識や技術、他者にケアを展開できるかを尋ねた項
目についても、研修後に有意に数値が上昇した。

本研究の結果は、今後のアピランスケアの指導者研
修として活用できると考えられる。そこで、研究結果を基
に Ver.0 に若干の修正を加え、アピランスケアを行う指
導者教育プログラム Ver. 1.0 (表 1) を完成させた。た
だし、終了後の自由記述意見にも見られたように、その
実践に向けては、人・施設・資材の準備等の問題をクリ
アにする必要がある。

2. e ラーニング研修プログラムの高い実行可能性

研究 B では、協力 4 施設 75 名と指導者研修研
究への参加を希望した 58 名、計 133 名に研究参加の
依頼文が配布された。参加者は 100 名(75.2%)、
男性 4 名・女性 96 名であり、平均年齢(SD)は

E. 結論

現時点で最良と考えられる医療者教育資材「e ラーニ
ング用基礎教育プログラム Ver. 1.0」及び「アピランスケ
アを行う指導者教育プログラム Ver. 1.0」を完成させた。こ
れらは、初の医療者向けアピランスケア研修プログラム

である。

* 資料 eラーニング作成研究報告参照

* 資料 指導者研修プログラム作成研究報告参照

今後は、各学会や医療機関等と連携しながら、希望する全ての医療者に提供できるようなシステムを構築し、アピアランスケアの標準化及び均てん化を図る予定である。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

(1) Keiko Nozawa, Makiko Tomita, Eriko Takahashi, Shoko Toma, Yasuaki Arai, Miyako Takahashi: Distress from changes in physical appearance and support through information provision in male cancer patients, *Jpn J Clin Oncol*, 1 - 8, 2017, [Epub ahead of print]

(2) 野澤桂子：医療者が行うがん患者の外見支援の意義, *日本皮膚免疫アレルギー学会雑誌* 12(1), 1 - 8, 2017

(3) 菊地克子：皮膚の健康科学最前線 皮膚科における化粧品の役割, *日本化粧品学会誌* 41巻4号, 282 - 285, 2017

(4) 菊地克子：機能からみた外来患者へのスキンケア指導 化学療法による副作用を減らすスキンケア、生活指導, *Derma* 259号, 22 - 50, 2017

(5) 全田貞幹：特集 / 頭頸部悪性腫瘍の疑問に答える, *JOHNS(Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery)* 33巻9号, 1264, 2017

(6) 藤間勝子：がん患者に対するアピアランスケアの意義(解説), *血液内科* 74巻4号, 551 - 556, 2017

(7) 飯野京子, 嶋津多恵子, 佐川美枝子, 綿貫成明, 市川智里, 栗原美穂, 上杉英生, 栗原陽子, 坂本はと恵, 稲村直子, 杉澤亜紀子, 宮田貴美子, 長岡波子：全著がん治療を受ける患者への外見変化に対するケア がん専門病院の看護師へのフォーカス・グループインタビューから, *Palliative Care Research*, 12(3),

709-715, 2017

(8) 飯野京子, 長岡波子, 剣物祐子, 亀岡智美, 小澤三枝子, 上國料美香, 水野正之, 木村弘江, 原田久美子, 大柴福子, 田村やよひ：看護職員の教育上の課題と課題解決のために活用したい院外研修への期待 政策医療を担う医療機関の看護部長の認識, *国立病院看護研究学会誌* 13(1), 55-65, 2017

(9) 小澤三枝子, 水野正之, 木村弘江, 原田久美子, 大柴福子, 上國料美香, 飯野京子, 剣物祐子, 田村やよひ, 亀岡智美：看護師長を対象とした継続教育プログラムの検討 政策医療を担う病院に勤務する看護師長の教育ニード・学習ニード調査から, *国立病院看護研究学会誌*, 13(1), 10-17, 2017

(10) 亀岡智美, 上國料美香, 飯野京子, 小澤三枝子, 木村弘江, 原田久美子, 大柴福子, 田村やよひ：看護部教育委員の学習ニードと特性の関係 政策医療を担う医療機関を対象にして, *国立病院看護研究学会誌*, 13(1), 2-9, 2017

(11) 村上真基, 大石恵子, 綿貫成明, 飯野京子：緩和ケア病棟を併設している療養病棟における緩和ケアに対する意識調査 緩和ケア病棟スタッフと療養病棟スタッフへの意識調査, *Palliative Care Research*, 12(3), 285-295, 2017

(12) Watanabe T, Yagata H, Saito M, Okada H, Yajima T, Tamai N, Yoshida Y, Takayama T, Imai H, Nozawa K, Sangai T, Yoshimura A, Hasegawa Y, Yamaguchi T, Shimozuma K, Ohashi Y. A multicenter survey of temporal changes in chemotherapy-induced hair loss in breast cancer patients. *PLOS ONE*, 2019-1-9, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0208118>

(13) Kikuchi K, Nozawa K, Yamazaki N, Nakai Y, Higashiyama A, Asano M, Fujiwara Y, Kanda S, Ohe Y, Takashima A, Boku N, Inoue A, Takahashi M, Mori T, Taguchi O, Inoue Y, Mizutani H. Instrumental evaluation sensitively detects subclinical skin changes by the epidermal growth factor receptor inhibitors and risk factors for severe acneiform eruption, *The Journal of Dermatology*, 2019-1, 46(1), p.18-25, doi:10.1111/1346-8138.14691

(14) 野澤桂子, アピアランスケア 癌治療に伴う毛髪の変化と患者支援, *日本化粧品学会誌*, 42(1),

p.21-25, 2018-3

(15) 飯野京子, 長岡波子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子, がん治療を受ける患者に対する看護師のアピランス支援の実態と課題および研修への要望, *Palliative Care Research* (4.3 採択済)

(16) 飯野京子, 長岡波子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 森文子, がん治療を受ける患者に対するアピランス支援の必要性と自信に関する看護師の認識および自信への関連要因 (投稿済み)

(17) 藤間勝子, 患者の悩み・疑問に答えるアピランスケア コスメ, 眉毛, まつ毛 化粧品を用いたアピランスケア, *がん看護*, 23(4), p.396-399, 2018

(18) 藤間勝子, がん治療による外見変化とその支援としてのアピランスケア, *Aesthetic Dermatology*, 29 (1), p.1-9, 2019-3

(19) 八巻知香子, 原田敦史, 「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」の作成とその評価, *医療の質・安全学会誌*, 14(1), p.35-38, 2018

(20) 八巻知香子, がんの治療と仕事の両立からみた政府主導「働き方改革」の整合性と課題, *日本健康教育学会誌*, 26(3), p.305-312, 2018

(21) Okuhara T, Ishikawa H, Urakubo A, Hayakawa M, Yamaki C, Takayama T, Kiuchi T, Cancer information needs according to cancer type: A content analysis of data from Japan's largest cancer information website, *Prev Med Rep*, 22;12, p.245-252, 2018

(22) Kasahara-Kiritani M, Matoba T, Kikuzawa S, Sakano J, Sugiyama K, Yamaki C, Mochizuki M, Yamazaki Y, Public perceptions toward mental illness in Japan, *Asian J Psychiatr*, 35, p.55-60, 2018

(23) 中盛祐子, 全田貞幹, 放射線皮膚炎, 放射線脱毛 見えるところだから気になってしまう. 入院中ならいいけど... (特集 患者の悩み・疑問に答えるアピランスケア), *がん看護*, 23(4), p.410-412, 2018-5

(24) 全田貞幹, 化学療法 / 放射線治療 - 有害事象の評価と対策 -, *耳鼻と臨床*, 64(Suppl.1), p.64-67, 2018-11

(25) Takahiro Kono, Nobuaki Imanishi, Keiko Nozawa, Atsuo Takashima, Rajagopalan Uma Maheswari, Hiroki Gonome, Jun Yamada,

Optical characteristics of human skin with hyperpigmentation caused by fluorinated pyrimidine anticancer agent, *Biomed Opt Express*, 10(8), p.3747-3759, 2019-7-2

(26) 飯野京子, 長岡波子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子 がん治療を受ける患者に対する看護師のアピランス支援の実態と課題および研修への要望, *日本緩和医療学会誌 Palliative Care Research*, 14(2), p.127-138, 2019-6-21

(27) 飯野京子, 長岡波子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 森文子 がん治療を受ける患者へのアピランス支援に関する看護師の認識-支援の必要性と自信およびその関連要因-, *国立病院看護研究学会誌*, 15(1), p.15-23, 2019

(28) 八巻知香子, 高山智子 信頼できるがん情報の提供と研究における患者・市民の参画の試み: 国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」のこれまでの活動と今後, *科学技術社会論研究*, 18, p.128-136, 印刷中

(29) 八巻知香子, 高山智子 ラジオドラマおよび冊子を用いたがん相談支援センターの周知効果の特徴に関する検討, *日本健康教育学会誌*, 27(4), p.307-318, 2019

(30) Tomoko Takayama, Chikako Yamaki, Masayo Hayakawa, Takahiro Higashi, Yasushi Toh, Fumihiko Wakao Development of a new tool for better social recognition of cancer information and support activities under the national cancer control policy in Japan, *Journal of Public Health Management & Practice*, In press

(31) 高山智子, 八巻知香子, 早川雅代, 若尾文彦, 木内貴弘 がんコミュニケーション学で期待されるもの: がん対策基本法および第3期がん対策推進基本計画からの実践と研究への示唆, *日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌*, 10(1), p.55-67, 2019

(32) 小郷祐子, 高山智子, 早川雅代, 八巻知香子 患者や家族からの研究段階の医療に関する相談と相談を生じさせる背景要因に関する検討 がん相談支援センターに寄せられる相談内容からの分析, *薬理と治療*, 47(Sup1), s49-s58, 2019

(33) Saeko Kikuzawa, Bernice Pescosolido, Mami Kasahara-Kiritani, Tomoko Matoba, Chikako Yamaki, Katsumi Sugiyama.

Mental health care and the cultural toolboxes of the present-day Japanese population: Examining suggested patterns of care and their correlates, *Social Science & Medicine*, 228, p.252-261, 2019

(34) Bonomo P, Paderno A, Mattavelli D, Zenda S, Cavalieri S, Bossi P Quality Assessment in Supportive Care in Head and Neck Cancer, *Front Oncol*, 18(9), p.926, 2019-9

(35) Hashimoto H, Abe M, Tokuyama O, Mizutani H, Uchitomi Y, Yamaguchi T, Hoshina Y, Sakata Y, Takahashi TY, Nakashima K, Nakao M, Takei D, Zenda S, Mizukami K, Iwasa S, Sakurai M, Yamamoto N, Ohe Y Olanzapine 5 mg plus standard antiemetic therapy for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting (J-FORCE): a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial, *Lancet Oncol*, 21(2), p.242-249, 2020-2

2. 学会発表

(1) 中川栄美, 野澤桂子 他: がん治療に伴う皮膚変化に対応するカムフラージュファンデーションの研究, 第81回 SCCJ 研究検討会, 2017.11.29, 東京

(2) 関根 広, 野澤桂子 他: 放射線治療による皮膚反応の定性的評価は定量的評価と一致するか, 日本放射線腫瘍学会第30回学術大会, 2017.11.18, 大阪

(3) 野澤桂子, 藤間勝子: がん患者のアピアランスケアに関する医療者教育研修会の現状と課題について, 国立病院総合医学会, 2017.11.11, 神奈川

(4) 野澤桂子: アピアランス支援の意義とエビデンス, 第13回日本乳がん看護研究会, 2017.10.21, 東京

(5) 野澤桂子: 大腸がん化学療法とアピアランスケア～患者の生きるを支援する～, 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017.10.20, 横浜

(6) 野澤桂子: 「肺癌患者のアピアランスケア」忘れてませんか, 栄養・リハビリ・外見の問題, 日本肺癌学会, 2017.10.14, 横浜

(7) 野澤桂子: アピアランスケア-癌治療に伴う毛髪の変化と患者支援-, 日本化粧品学会, 2017.10.12, 東京

(8) 野澤桂子: 看護師に求められるアピアランスケア, 第14回日本乳癌学会中部地方会, 2017.9.9, 飯田市

(9) 野澤桂子: 肺がん患者のアピアランスケアについて考える, 第106回日本肺癌学会関西支部学術集会, 2017.6.24, 大阪

(10) 藤間勝子, 野澤桂子: 手術により容貌変化した上顎洞悪性黒色腫患者に対するアピアランス支援の一例, 第22回日本緩和医療学会学術大会, 2017.6.24, 横浜

(11) 野澤桂子: 化粧・整容療法 認知症・老化による機能的・外見的变化への対応「癌治療に伴う外見の変化とアピアランスケア」, 第28回日本老年歯科医学会学術大会, 2017.6.15, 名古屋

(12) 長岡波子, 飯野京子, 藤澤雄太, 小田幸司, 柿本英明, 成田綾子, 水谷奈緒子: 看護基礎教育におけるがん看護教育の取り組み, 第15回国立病院看護研究学会学術集会, 2017.12, 東京

(13) 長岡波子, 飯野京子, 劔物祐子, 亀岡智美, 小澤三枝子, 木村弘江, 原田久美子, 大柴福子, 上國料美香, 田村やよひ: 政策医療を担う医療機関の看護部長が認識している看護職員の教育上の課題, 第71回国立病院総合医学会, 2017.11, 高松

(14) 飯野京子, 綿貫成明, 長岡波子, 栗原美穂, 渡辺由美: 「それぞれの癌」超高齢社会の癌治療—理想と現実—がん治療を受ける高齢患者の課題とQOLを高める看護—食道がん術後回復プログラムの開発, 日本癌治療学会学術集会, 2017.10, 神奈川

(15) 花出正美, 小野桂子, 林美子, 井上さよ子, 飯野京子, 細矢美紀, 關本翌子, 小野智子, 中山祐紀子: 「がんを知って歩む会」の新規立ち上げ 運営に関する医療者のニーズと課題, 第23回日本緩和医療学会学術集会, 2017.6, 横浜

(16) Iino K, Nagaoka N, Nozawa K, Watanuki S, Toma S, Shimizu Y, Shimazu T, Sagawa M, Mori A, Shimizu C, Survey on the appearance care for patients experiencing alopecia of the whole body associated with cancer therapy, The 5th China Japan Korea Nursing Conference, P1-J-4, 2018/9/16-18, Tokyo

(17) Nagaoka N, Iino K, Nozawa K, Watanuki S, Toma S, Shimizu Y, Shimazu T, Sagawa M, Mori A, Shimizu C, Survey on the appearance care for patients experiencing skin and nail toxicity associated with cancer therapy, The

5th China Japan Korea Nursing Conference, P1-J-5, 2018/9/16-18, Tokyo

(18) Shimazu T, Iino K, Watanuki S, Nagaoka N, Nozawa K, Toma S, Shimizu Y, Sagawa M, Mori A, Shimizu C, Survey on the care for patients experiencing appearance changes associated with cancer therapy: Comparison among departments, The 5th China Japan Korea Nursing Conference, P1-J-6, 2018/9/16-18, Tokyo

(19) Watanuki S, Iino K, Nagaoka N, Nozawa K, Toma S, Shimazu T, Shimizu Y, Sagawa M, Mori A, Shimizu C, Survey on the perceptions of health care professionals regarding care for patients experiencing appearance changes associated with cancer therapy, The 5th China Japan Korea Nursing Conference, P1-J-7, 2018/9/16-18, Tokyo

(20) 長岡波子, 飯野京子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森 文子, 清水千佳子, がん治療を受ける患者に対するアピアランス支援の活動状況と課題, 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 2019-2-23~24, 福岡

(21) 嶋津多恵子, 飯野京子, 野澤桂子, 長岡波子, 綿貫成明, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子, がん治療を受ける患者の外見変化に対するアピアランス支援の医療者として行う必要性の認識と自信, 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 2019-2-23~24, 福岡

(22) 野澤桂子, 藤間勝子, 清水千佳子, がん治療に伴う外見の変化と対処行動の実態 ~1,035 名の患者対象調査から~, 日本緩和医療学会 第 1 回関東・甲信越支部学術大会, 2018-11-4, 東京

(23) 野澤桂子, 藤間勝子, 清水千佳子, 医療者に期待されるアピアランスケアの情報提供 ~1035 名の患者対象調査から~, 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 2019-2-23~24, 福岡

(24) 藤間 勝子, 野澤 桂子, 上坂 美花, 改發 厚, 岸田 徹, 桜井 なおみ, 山崎 多賀子, 清水千佳子, 一般人を対象とした, がん治療に伴う外見変化の知識・対処に関するインターネット調査, 第 56 回日本癌治療学会学術集会, 2018-10-20, 横浜

(25) 野澤桂子, アピアランスケアとAYA 支援, 第 1 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2019-2-11, 名古屋

(26) 野澤桂子, 医療者は外見変化の悩みとそれに起因する治療拒否, 困難事例とどう向き合うのか ~ 乳癌のアピアランスケア ~, 第 15 回日本乳癌学会関東地方会看護セミナー, 2018-12-1, 大宮

(27) 菊地克子, 野澤桂子, 清原祥夫, 山崎直也, 濱口哲弥, 福田治彦, 水谷 仁, EGFR 阻害薬による顔面のざ瘡様皮膚炎に対するステロイド外用薬治療に関するランダム化比較第 相試験 (FAEISS*study), 第 3 回日本サポーターケア学会学術集会, 2018-8-31, 福岡

(28) 野澤桂子, 緩和医療とアピアランスケア ~ 人の生きる, を支援する Part ~, 日本緩和医療学会 第 1 回関東・甲信越支部学術大会, 2018-11-4, 東京

(29) 野澤桂子, チームで取り組むがん患者のアピアランスケア 医療者によるアピアランスケアの実態と課題, 第 56 回日本癌治療学会学術集会 パネルディスカッション 21, 2018-10-20, 横浜

(30) 飯野京子, 長岡波子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森 文子, 清水千佳子, がん治療を受ける患者に対する医療従事者のアピアランス支援の実態と課題および研修への要望, 第 5 回日中韓看護学会学術集会, 2018-9-17, 東京

(31) 二宮ひとみ, 朴 成和, 里見絵理子, 森 文子, 清水 研, 内富庸介, 野澤桂子, 加藤雅志, 渡辺典子, 寺門浩之, 国立がん研究センター中央病院における初診時の苦痛スクリーニング, 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2018-7-19~21, 神戸

(32) 野澤桂子, 藤間勝子, 清水千佳子, 医療者に期待されるアピアランスケアの情報提供 ~1035 名の患者対象調査から~, 第 33 回日本がん看護学会学術集会抄録, 2019-2-23~24, 福岡

(33) 藤間勝子, がん患者のアピアランスケア, 第 31 回日本サイコoncology学会総会, 2018-9-21~22, 金沢

(34) 藤間勝子, 一般人を対象とした, がん治療に伴う外見変化の知識・対処に関するインターネット調査, 第 56 回日本日本癌治療学界学術集会, 2018-10-18~22, 横浜

(35) 藤間勝子, 日常整容品を用いた爪障害への対応 ~ 明日からできる簡単ケア ~, 日本緩和医療学会 関東・甲信越支部学術大会, 2018-11-4, 東京

(36) 野澤桂子 頭頸部に外見変化が生じる患者に対して医療者の行うアピアランスケア, 日本がん口腔支持療法学会第 5 回学術集会, 2019-12-1, 東京

- (37) 野澤桂子 医療者の支持療法としてのアピアランスケア, 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019-10-24~26, 福岡
- (38) 野澤桂子 医療者によるアピアランスケア~患者支援に必要な新たな視点~, 第 7 回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, 2019-10-10~11, 埼玉
- (39) Y. Fujiwara, K. Nishino, M. Tamiya, K. Kikuchi, R. Saito, T. Kobayashi, T. Hamaguchi, K. Nozawa, H. Fukuda, Y. Kiyohara, N. Yamazaki
Initial analysis in NSCLC part of a randomized trial evaluating topical corticosteroid for the facial acneiform dermatitis by EGFR inhibitors, 第 20 回世界肺癌学会 IASLC 20th World Conference on Lung Cancer, 2019/9/7~10, パルセロナ
- (40) N. Yamazaki, K. Kikuchi, K. Nozawa, H. Fukuda, T. Shibata, T. Hamaguchi, A. Takashima, H. Shoji, N. Boku, S. Takatsuka, T. Takenouchi, T. Nishina, K. Hino, S. Yoshikawa, K. Yamazaki, M. Takahashi, A. Hasegawa, H. Bando, T. Masuishi, Y. Kiyohara
Primary analysis results of randomized controlled trial evaluating reactive topical corticosteroid strategies for the facial acneiform rash by EGFR inhibitors (EGFRIs) in patient(pts) with RAS wildtype(wt) metastatic colorectal cancer(mCRC)-FAEISS study-, 欧州臨床腫瘍学会学術集会 ESMO Congress 2019 (EUROPEAN SOCIETY FOR MEDICAL ONCOLOGY), 2019/9/27~10/1, パルセロナ
- (41) 野澤桂子 進化するアピアランスケア~フレームワークを理解する~, 第 4 回日本がんサポーターケア学会学術集会, 2019-9-6~7, 青森
- (42) 野澤桂子 がんのアピアランスケア(外見ケア), 第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019-7-20, 京都
- (43) 野澤桂子 最新調査から見てきた患者支援~社会に生きるを支援する~, 第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019-7-20, 京都
- (44) 長岡波子, 飯野京子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子 がん治療を受ける患者に対するアピアランス支援の活動状況と課題, 日本がん看護学会誌, Vol33, Supplement, p.271, 2019
- (45) 嶋津多恵子, 飯野京子, 野澤桂子, 長岡波子, 綿貫成明, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子 がん治療を受ける患者の外見変化に対するアピアランス支援の医療者として行う必要性の認識と自信, 日本がん看護学会誌, Vol33, Supplement, p.271, 2019
- (46) 藤間勝子 アピアランスケアに使用する日常整容品の基礎知識, 第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019-7-20, 京都
- (47) 藤間勝子 アピアランスケアに必要な化粧品・日用整容品について検討する, 第 4 回がんサポーターケア学会, 2019-9-7, 青森
- (48) 長岡波子, 飯野京子, 野澤桂子, 綿貫成明, 嶋津多恵子, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子 がん治療を受ける患者に対するアピアランス支援の活動状況と課題, 第 34 回がん看護学会, 2020-2-22, 東京
- (49) 嶋津多恵子, 飯野京子, 野澤桂子, 長岡波子, 綿貫成明, 藤間勝子, 清水弥生, 佐川美枝子, 森文子, 清水千佳子 がん治療を受ける患者の外見変化に対するアピアランス支援の医療者として行う必要性の認識と自信, 第 34 回がん看護学会, 2020-2-22, 東京
- (50) 野澤桂子, 藤間勝子, 清水千佳子 医療者に期待されるアピアランスケアの情報提供 1035 名の患者対象調査から, 第 34 回がん看護学会, 2020-2-22, 東京
- (51) 八巻知香子, 谷口晃瑠, 中谷有希, 佐藤稔子, 岩満優美, 土屋雅子, 高橋都 ウェブサイトで公開する AYA がん体験談集の評価に関する研究, 第 2 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2020-3-20~21, 名古屋(Web 開催)
- (52) 八巻知香子, 高山智子, 井上洋士, 池口佳子 内他部署からみたがん相談支援センターの特徴に関する研究, 第 11 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会, 2019-9-21~22, 東京
- (53) 中谷有希, 谷口晃瑠, 佐藤稔子, 岩満優美, 八巻知香子, 高橋都 AYA 世代のがん患者が求める体験談のニーズに基づいた Web サイト構築の取り組み, 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019-10-24~26, 福岡
- (54) 高山智子, 井上洋士, 早川雅代, 八巻知香子, 藤也寸志, 若尾文彦 がん患者等からの「しびれ」に関する質問の収集と医療者が活用する情報に関する検討, 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019-10-24~26, 福岡
- (55) 井上洋士, 高山智子, 早川雅代, 八巻知香

子, 藤也寸志, 若尾文彦 がん患者・家族からの排尿に関する質問や疑問(PVP)の収集の試み, 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019-10-24~26, 福岡

(56) 高山智子, 井上洋士, 八巻知香子, 清水奈緒美, 森田智視, 萩原明人, 藤也寸志 患者中心のコミュニケーション評価項目の信頼性および妥当性の検討 ~ がん相談支援センター利用者を対象に~, 第 11 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会, 2019-9-21~22, 東京

(57) 高橋朋子, 八巻知香子, 高山智子 AYA 世代でのがん罹患者に向けたがん情報提供の実態, 第 11 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会, 2019-9-21~22, 東京

(58) 三輪眞木子, 八巻知香子, 田村俊作, 野口武悟 覚障がい者の健康医療情報ニーズの特性と提供の際の課題, 日本図書館情報学会研究大会発表論文集, 2019-10-19~20, 京都

(59) 全田貞幹 支持療法・緩和治療領域研究ポリシーについて, 第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019-7-18~20, 京都

(60) 全田貞幹 支持療法に関する基礎知識, 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019-10-24~26, 福岡

(61) 全田貞幹 頭頸部癌がん化学放射線治療における口腔粘膜炎対策, 日本放射線腫瘍学会第 32 回学術大会, 2019-11-21~23, 名古屋

(62) 全田貞幹 多職種チーム医療と放射線治療医, 日本放射線腫瘍学会第 32 回学術大会, 2019-11-21~23, 名古屋

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

アピランスケアeラーニングコンテンツ

アピランスケア概論UNIT 主担当：野澤

アピランスケアの基本理念

アピランスケアの背景

コミュニケーション

院内におけるケアの展開方法

アセスメント

多職種連携の注意点

Step I. アピランスケアにおける患者への情報提供のポイント 主担当：飯野・森

薬物療法 (分子標的薬治療含む)

脱毛 野澤・藤間

皮膚障害 飯野

爪障害 飯野

予防・初期

予防・初期

予防・初期

継続中、増悪時

継続中、増悪時

継続中、増悪時

治療終了後

治療終了後

治療終了後

放射線療法

全田

放射線皮膚炎・脱毛

予防・初期

継続中、増悪時

治療終了後

手術療法

乳房 森
切除術&再建術

ストーマ 森

頭頸部 森
切除術&再建術

術前

事前・初期

術前

術後

トピック

術直後

トピック

治療終了後

Step II. アピランスケアにおける患者への個別技術指導のポイント 主担当：飯野・森・野澤・藤間

脱毛カバーに関わる
対処方法
担当：野澤・藤間

皮膚障害に関わる
対処方法
担当：飯野

爪障害に関わる
対処方法
担当：飯野

放射線治療による
外見変化への対処方法
担当：全田

手術による外見変化への
対処方法
担当：森

Step III. アピランスケア提供の前提となる関連知識

化学療法に関わる
外見変化
担当：清水

分子標的薬治療に関わる
外見変化
担当：菊地

放射線治療に関わる
外見変化
担当：全田

外科手術に関わる
外見変化
担当：有川

ウィッグ・香粧品に関する
基礎知識
担当：藤間

図1.アピランスケア eラーニングスライドコンテンツ構成

表1. アビアランスケア指導者教育プログラム Ver.1.0

到達目標		アビアランスケアについて多様な相談に応じられるよう、より高い知識・技術を取得する アビアランスケア立案と実施の方法を他の医療者に説明できる アビアランスケア担当者に対し、必要となる実技を説明・デモンストレーションできる。 アビアランスケア担当者研修会を企画・実施できる	
DAY1		項目	内容
10:00-10:30	30分	オリエンテーション・アイスブレイキング	
10:30-12:00	90分	講義：アビアランスケアの理論	E-learningで学んだ理論を振り返ると共に、担当者研修で説明する際のポイントを確認する
12:00-13:00	60分	昼食	
13:00-13:30	30分	講義・グループワーク：問題解決フレームを使用したアビアランスケア立案の方法	問題解決フレームの使用とケア立案の方法を再確認すると共に、担当者研修で説明する際のポイントを確認する
13:30-14:30	60分	事例検討 「脱毛が判らないウィッグが欲しい」	グループで事例を検討し、事例検討の扱い方を学ぶ
14:30-15:30	60分	講義・グループワーク：認知変容・コミュニケーションへの介入	E-learningで学んだ内容を見直し、担当者研修で説明する際のポイントを確認する
15:30-15:40	10分	休憩	
15:40-16:40	60分	講義・グループワーク：患者へのコミュニケーション、コンサルテーションの方法	E-learningで学んだ内容を見直し、担当者研修で説明する際のポイントを確認する
16:40-17:00	20分	片付け・質疑応答	
DAY2		項目	内容
10:00-10:30	30分	講義：脱毛ケアの知識	脱毛ケアに使用する製品の基礎知識
10:30-12:00	90分	実習：脱毛への対処	ウィッグの取扱いやその他脱毛ケアに必要な製品の使用方法
12:00-13:00	60分	昼食	
13:00-14:00	60分	事例検討 まつ毛の脱毛とAYA支援	グループで事例を検討し、事例検討の扱い方を学ぶ
14:00-15:00	60分	事例検討 眉毛の脱毛と男性への支援	グループで事例を検討し、事例検討の扱い方を学ぶ
15:00-15:10	10分	休憩	
15:10-16:40	90分	実習：眉やまつ毛の脱毛への対処	化粧品を用いた対処方法や眼鏡などを利用したカムフラージュ方法
16:40-17:00	10分	片付け・質疑応答	
DAY2		項目	内容
10:00-11:00		講義・実習：色素変化への対処	染毛の基礎知識や医療用ファンデーション等の使用方法
11:00-12:00		実習：爪障害への対処	ネイルファイルやマニキュアなどの日常整容品を使用したケア方法
12:00-13:00		昼食	
13:00-13:30		講義：アビアランスケアに使用する物品について	日常整容品についての基礎知識を確認する
13:30-14:00		講義：他職種との連携の注意点	美容専門家等との連携の際の注意点を確認する
14:00-15:30		講義・グループワーク 自施設や地域でのアビアランスケア研修の企画・実施方法	院内でアビアランスケアを展開する場合の準備や実践方法について
15:30-15:40		休憩	
15:40-16:40		講義：自施設や地域でのアビアランスケア研修の企画・実施方法について <モデルプラの説明と実施方法>	担当者研修モデルプラン の説明と研修方法の説明
16:40-17:00		質疑応答・まとめ	

研究協力者

上坂 美花	患者代表： CheerWoman チアウーマン第 3 期，第 4 期事務局長
改發 厚	患者代表： 精巣腫瘍患者友の会代表
岸田 徹	患者代表： NPO 法人がんノート代表理事
桜井 なおみ	患者代表： 一般社団法人 CSR プロジェクト代表理事
山崎 多賀子	患者代表： NPO 法人がんリボンズ理事
矢内 貴子	国立がん研究センター中央病院 薬剤部
鈴木 牧子	国立がん研究センター中央病院 看護部 看護師長
鈴木 恭子	国立がん研究センター中央病院 看護部 看護師長
工藤 礼子	国立がん研究センター中央病院 看護部 副看護師長
垣本 看子	国立がん研究センター中央病院 看護部 看護師
長岡 波子	国立看護大学校 看護学部 助教
綿貫 成明	国立看護大学校 看護学部 教授
菅沼 薫	武庫川女子大学客員教授 (sukai 美科学研究所代表)
小野 由布子	武蔵野赤十字病院 医療ソーシャルワーカー

